

# 17 八丁池

はつちよういけ

「伊豆の瞳」の愛称で呼ばれる八丁池は標高1173mにある天城火山の火口湖と言われているが、最近の調査で活断層のズレによってできた池であることがわかった。周囲がスズケに覆われていることから別名「青スズの池」とも呼ばれ、天然記念物のモリアオガエルの生息地としても知られている。

八丁池の名は周囲が八丁(約870m)あることからついたと言われるが、実際は580mほどである。

八丁池へのルートは、沢山あるが、古くから親しまれている一般的なコース「上り御幸歩道」を紹介。修善寺駅から河津駅行きのバスで43分、天城峠で下車。新天城トンネルに向かって左側の山道を上る。ダムを越えて急な階段を15分足らずで旧天城トンネルに出る。今度はトンネルの右側から急な山道をジグザクと上るとこと25分で大きなブナの木がある天城峠の分岐。右に行けば二本杉峠(旧天城峠)を経て猫越岳・仁科峠方面の伊豆山稜線歩道。八丁池へは左に行く。杉や松の人工林、ブナやヒメシヤラの自然林がおり混じった樹林帯は、新緑の頃、紅葉の頃に訪れると、天城の自然を満喫できる。



▲天城の紅葉

## コースタイム(参考)

所要時間/約4時間30分

修善寺駅	バス	42分	水生地下	バス	43分	修善寺駅
水生地下	バス	15分	水生地	バス	15分	水生地下
水生地	バス	15分	本谷林道	バス	25分	水生地
本谷林道	バス	25分	白砂林道	バス	40分	本谷林道
白砂林道	バス	40分	八丁池	バス	45分	白砂林道
八丁池	バス	45分	大見分岐点	バス	60分	八丁池
大見分岐点	バス	60分	向峠	バス	30分	大見分岐点
向峠	バス	30分	天城峠	バス	25分	向峠
天城峠	バス	25分	旧天城トンネル	バス	15分	天城峠
旧天城トンネル	バス	15分	天城峠	バス	43分	旧天城トンネル

下り八丁池歩道経由



▲大ブナ(下り八丁池歩道)



▲新緑の八丁池(展望台より)



▲昭和天皇行幸記念碑



▲八丁池畔

峠からしばらくはくはちょっときつくて長い木の階段を上って下ると30分ほどで向峠。この後はほぼ平坦な道を快調に歩ける。よく見れば樹の間から富士山も望めるところがある。大見分岐点からは、道が狭くなって石が多く歩きにくい所がある。相変わらぬ樹林帯を上ると野鳥の森コマドリ歩道の分岐。真直ブナやヒメシヤラの樹林帯をさらに上り、アセビが多く見られるようになると寒天林道(八丁池遊歩道)に出る。左に少しでトイレのある分岐。左に1分で展望台がある。展望台に上がるとブナの林に囲まれた八丁池が望める。晴れていればブナの林の上に富士山の頭が望める。

トイレまで戻り八丁池へはもう10分ほどだ。左に「下り御幸歩道」の道(帰りにこの道に入る)を見送ると八丁池だ。池畔に昭和5年(1930)6月に、この地を訪れた昭和天皇の行幸記念碑がある。八丁池は天城のハイキングの中で、最も人気のコースで、いつ訪れてもハイカーの姿がある。池を一周する遊歩道があったが、モリアオガエルの保護のため半分ほどで通行止め。池を左に回り込んだ所に龍がまどわりついた水神さんが祀られている。反対側には弁財天もある。帰りは「下り御幸歩道」を経て水生地へ降りる。アセビのトンネルからブナやヒメシヤラの森を抜ける。と本谷歩道との分岐。そのまま下ればすぐに白砂林道に出る。平成23年春に新コースとして八丁池から天城縦走路に入ってすぐに「下り八丁池歩道」の入口がある。斜面を少し上れば、後は樹林帯の下り一方となる。ブナの巨木も見られる森で、秋には紅葉も楽しめるコースである。道標もしっかりしているので安心して歩ける。そしてこの道は「下り御幸歩道」の本谷歩道分岐で合流する。

白砂林道を横断し、杉・松の薄暗い林を下り、本谷林道に出たら、そのまま林道を下れば旧下田街道の水生地に出る。白橋を渡り伊豆の奥入瀬と呼ばれる本谷川の清流を見ながら旧下田街道を15分も下ると水生地下のバス停に出る。

## 旧天城トンネルから樹林帯を散策 森林浴を楽しみながら伊豆の瞳を尋ねる